

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0892200072		
法人名	有限会社エスエス住建		
事業所名	グループホーム こもれ陽の家		
所在地	茨城県鹿嶋市和941-12		
自己評価作成日	平成30年1月11日	評価結果市町村受理日	平成30年5月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JiyosyoCd=0892200072-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成30年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた場所に建てており、静かな環境の中で生活されている。敷地隣には、自社の畑があり、利用者様と職員と一緒に作業・収穫し、採れたての新鮮な野菜を食事に提供している。月1回は、外食に出かけたり、天気の良い日には、散歩に行ったり、ベランダで外気浴をしたりして、積極的に外に出ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定年退職後に全国各地から移り住む方が多いという土地柄もあり、北は北海道、南は鹿児島まで利用者の出身地は様々である。その為か、利用者それぞれの文化が入り混じり、一味違う雰囲気を持つ事業所である。野兔やキジが林の中に見え、それをスケッチする方がいる。地盤も固く、高台にあるため自然災害に遭うことも少なく、穏やかな地域である。利用者同士が仲良く、明るい印象であることに加え、職員同士のチームワークの良さが際立っていた。開設にあたり、既にグループホームの運営を手掛けているオーナーと経験豊富な管理者のもとに、同法人が運営するデイサービスで働いていた職員が全員異動してきたとのことで、とても心強い環境である。職員はグループホームはデイサービスと違って24時間向き合う難しさはあるが、軽度の方が多いので、じっくり関われることにやりがいを感じているという。細やかな配慮のもと、ひと手間かけたケアがなされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、管理者と職員は意識して実践につなげている。	理念は玄関に掲示され、職員がそれぞれ出勤時に確認し一日の勤務に当たっており「笑顔で生き生き」の通り仕事モードに気持ちを切り替えられるという。一日一回でも笑顔を作れるように努めている。職員それぞれの思いをカンファレンスで共有し、統一した理念の実践を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	ご近所の方々との挨拶をかわしている。犬の散歩の途中で立ち寄り、利用者とのコミュニケーションを図られている。	畑作業を利用者と一緒に行っている。通りかかった人や犬の散歩中の人などから声をかけられ、交流の場ともなっている。ご近所の方へ野菜をおすそ分けしたり、いただいたりする関係ができています。ホームを犬の散歩コースに入れている地域住民が、散歩の際には必ず寄ってくれる。利用者は動物に対してそれぞれの感情を豊かに表現し、よい刺激となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	月1回開催される認知症カフェの場所を提供している。ご本人や家族を支援できる体制が出来ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での貴重な意見を職員間で共有し、日々の介護に反映している。	市役所の担当者、包括支援センターの職員、民生委員、家族と利用者も2名ぐらい参加する。畑の収穫祭を兼ねての開催を試みた。書の得意な方が看板を書き、司会も利用者が行うなど、会の運営に際しそれぞれが役割を果たすことができた。通常はホームの活動報告や感染症対策、熱中症対策など開催時期に合わせた話題を提供している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議では、ホームでの取り組み等を伝え、行事にも参加して頂き、協力関係を築けている。	ホームで問題がなければ、あまりホームから連絡は取っていない。包括支援センターからは研修のお誘いがあり、職員が野菜を見に来てくれたりする。包括支援センター主催の認知症カフェの場としてホームを解放している。月1回開催され、10人弱の参加がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	院内研修をしており、職員は何が拘束に当たるかを理解し、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。	『拘束しないケア』は職員の間では当たり前のことになっている。動けないように車いすを押し付けたり、沈み込むようなソファは使用しない他、言葉の拘束にも気を配っている。車の往来も少なく、危険がないので玄関は施錠していない。拘束に関する外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、他の職員にも周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	カンファレンスの時にどのようなことが虐待に当たるかを話し合いをもっている。虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある利用者様には、情報提供やアドバイスが出来るよう学ぶ機会を持ちたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を設け、丁寧に説明を行い、理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が訪問された時は、声かけし、気軽に話ができるよう努めている。利用者様とコミュニケーションをとり、思いを組み、支援に活かしている。	面会時に話しやすいよう、こちらから声掛けをする。来られない方には電話で伝え、ご本人とも話してもらおう。開設して日が浅いことから、食事会を兼ねての顔合わせを『家族会』として行った。家族も初めての経験なので、お互いに知り合ういい機会であった。参加者同士、写真の展示を見ながら会話が弾んでいた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスを設けており、そこで出た意見はリーダー・管理者会議で検討され、運営に反映させている。	カンファレンスでは『徘徊への対応』など、その時の旬な話題が出されたり、ハード面での必要なものが出される。意見はリーダー・管理者会議で検討してすぐできること、時間が必要なことなどに振り分けて反映させている。カンファレンスの進行は管理者が行い、記録は職員が交代で行なう。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は働きやすい環境づくりと、従業員の意識向上の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護力アップの為、研修を受ける機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修に参加する機会を設け、研修を通じて意見交換をしたり、交流を持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	少しでも不安を取り除けるようコミュニケーションを蜜に取り、安心できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に話を伺い、これまでの生活の大変さを共感し、困った事があれば助言・支援できる体制づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを行い、コミュニケーションの中から、本人の思いを知り、どんな支援が必要か検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中の工夫や職員が気づかない事等ご指導いただいている。野菜や畑の作り方や、料理の方法など教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族のそれぞれの思いを理解し、思いを尊重したケアが出来るようにご家族にも協力して頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人に電話をかけたり、手紙を出したりして、関係性を継続できるよう支援している。	兄弟や幼馴染みの友人、ご近所さんなどが面会に来る。友人に年賀状を出すなど、手紙での交流も行っている。また、近くのグループホーム『くぬぎの森』との交流もある。秋田出身の方と郷土料理の『きりたんぼ』を作り、収穫祭で味わった。一人ひとりの馴染みのもの引き出し、継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう職員が間に入り、利用者同士が関われるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、利用契約終了の事例がない。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを大切にし、本人の思いに耳を傾けている。思いに寄り添いながら、より良い環境づくりをしている。	動物に対する気持ちやカラスを見てはその習性を話してくれた。話しているときはとてもいい笑顔になる。一人で部屋にいるときは職員との会話が弾み「こんなにたくさん話せるんだ」と普段とは違う利用者の顔に驚いたり、思いもよらない言葉が聞けたりする。それぞれがキャッチした思いや意向は職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも協力して頂き、これまでの暮らしの把握に努めている。入浴時等、ゆっくり話を聞ける時間を設けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェックを行い、本人にも聞き取りしながら、身体の状態を把握をしている。職員同士も気づいた事を報告し、体調の変化に留意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス等でニーズや課題等を話し合い、介護計画を作成している。定期的にモニタリングも行っている。	アセスメントを担当した職員が、ケアマネと一緒にニーズを拾い出しケアプランを作成している。気持ちシートの本人の思いからニーズを拾って、長期・短期目標を設定する。その後にサービス内容を決定し介護計画作成。モニタリングは計画作成者が職員からの意見を受けて行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録を細かく記入し、職員間で情報を共有しながら、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族にも協力して頂き、なじみの物を持参してもらったり、物品を購入したりして、本人のやる気を引き出している。買い物や散髪等も本人の希望に沿って対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの来所はあるが定期的ではない。地域住民の方が犬の散歩時来所してくださり、利用者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を大切に、今まで通り受診できるよう支援体制を整えている(車椅子での送迎等)	支援病院は24時間365日対応で、ターミナル期の対応も可能。かかりつけ医への受診は家族が付き添う。眼科受診など専門外来は職員が対応する。リフト車で家族への支援を行うこともある。往診は月1回。看護師は同一法人のくぬぎの森と兼務になっていて、時折見に来る。歯科は通院、往診どちらも可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化や本人の訴えは、その都度看護師に伝えている。必要に応じて受診している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携は蜜に行っている。情報の共有を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にターミナルケアも行っている施設であることを説明している。医療と連携を取りながら、希望に沿った最期を迎えられるような体制を取っている。	契約時に『重度化した場合における対応及び看取りの指針』を説明し同意をもらう。体調の変化など、時期を見て医師や家族と話し合いをし、文書で確認しており、変更も可能である。職員は痰吸引の研修を受け、県の許可を得ている。診療所は入院もできるが、慣れた居室でも点滴治療を受けられるように環境を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が急変・事故発生時のマニュアルを周知しており、発生時に速やかに対応できるような体制である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法等確認している。災害時は協力施設への対応をお願いしている。	大雨を想定し高台に建てた。同一法人内の「くぬぎの森」では井戸水があり外部からの宿泊が可能になっていて、災害時の協力体制はできている。備蓄は1週間分あり、利用者個別の持ち出しグッズは1冊のファイルにまとめている。3月には設備の点検をしながら、電話対応の練習も含めた訓練を予定している。緊急時の対応のマニュアルは目につきやすいところに掲示しており、ファイルも整備されている。	1ユニットであることから、夜勤は一人体制になる。夜間災害時の不安を解消し、利用者の安全確保のため、夜間想定での避難訓練を実施することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として敬い、自尊心を傷つけないような言葉かけをしている。プライバシーに配慮し、必要に応じて居室にて対応している。	一人ひとりの違いを念頭に、他の人に聞かれないときは居室で聞く。トイレの誘導は耳元でそっと行う。利用者から教えてもらうことも多く、素晴らしい知恵とと思うことがある。職員が利用者一人ひとりと話す時間を多く取れるようにしている。時間がかかりそうなときは、他のスタッフが仕事をカバーしてくれるなど、職員間のチームワークができています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理強いせず、利用者の希望を確認しながらケアに当たっている。本人の希望を実現できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人一人のペースに合わせた生活をして頂いている。本人の希望を取り入れたレクや創作活動等に活かしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選んで着て頂いたり、起床準備では、声かけしながら身だしなみを整えられるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の野菜と一緒に収穫したり、利用者の嗜好を聞きながら、毎日の献立に反映させている。後片付け等は、出来る方は職員と一緒に手伝って頂いている。誕生会等で外食にも出かけている。	誕生日には本人の好きなメニューを提供する。お茶会では、みたらし団子を手作りして楽しんだ。ならせ餅(正月)など季節の行事も取り入れ、野菜を切ったり下膳を手伝ってもらう。畑の野菜も食卓に並ぶ。外食では自分でメニューを選び、すしやそばなどを楽しむ。正月はおせち料理を作り、米をつぶして餅の代わりにした。手作りみそを味わうこともある。調査当日は誕生日を迎えた方がおり、賑やかな食事風景だった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分摂取量をチェックし、体調の変化等ないか留意している。食形態を工夫し、バランスの取れた食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後うがいや歯磨きを行っている。適時に口腔内の観察を行い、口腔内の清潔が保持できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のパターンを把握し、一人ひとりのリズムに合わせた支援をしている。	全員トイレで自立している。目の不自由な方は本人からの発信で介助している。排泄チェック表で間隔が開いた方は声かけする。また、トイレでの時間が長い場合も声掛けする。ご本人の希望で夜間ポータブルを使用している方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、自然排便で出るよう毎朝牛乳を飲んで頂いたり、おやつにヨーグルトを出すなど食事に工夫をしたり、散歩等で体を動かすなどして便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1人1人の希望をなるべく実現しようと努めているが、全ては実行出来てない。希望に沿えるよう努力している。	脱衣所にエアコンあり、カーテンで仕切ってプライバシー保護への配慮をしている。バスマットの上に本人持ちのタオルを使い、感染防止対策を行っている。一回ごとに浴槽を洗い、お湯を取り替えている。ひげ剃りを夕方にする方が居たり、体調を見ながら湯温を設定したり、入り方の違いなどにも配慮している。洋服は利用者に選んでもらう。菖蒲湯、ゆず湯を楽しむこともあり、夜間以外は基本的に自由に入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の生活リズムを把握し、寝具の工夫・温度調節など環境の工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルが整理されており、毎月の処方箋が確認できるようになっている。内服の変更時は申し送り情報の共有はできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コミュニケーションから、1人1人の嗜好や楽しみを見つけ、楽しく過ごせるよう工夫している。外食や行事等で気分転換もされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩や外気浴をし、気分転換を図っている。月1回は外食の計画を立て、季節を感じたり、施設外の方たちとの交流をして頂いている。	あやめ祭り、鹿島神宮の菊祭りには七五三参りの子ども達もいて、楽しそうに眺めていた。初詣は参拝客で混む時期を避けて2月に行う。今年はインフルエンザの流行で行けなかった。参拝にはあらかじめお賽銭を用意して出かける。さくらの花見は、鹿島城址公園に出かけた他、近所の方から招待を受けて桜の木の下で楽しむことできた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理可能な方は、財布を持っていたり、希望されるものを職員と一緒に買い物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話をしたり、利用者様が書いた手紙等をポストに投函するなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間から続くテラスでは、花壇の花や畑を見渡すことが出来るようになっている。天窓があり、自然の明るさを取り入れ、風通しも良い。	季節の花が活けられ、水仙の香りが漂っていた。ひな壇やつるし雛の飾りが季節をより感じさせていた。高い天上は開放感があり、明るくゆったりさせてくれる。行事写真を展示することで、家族や利用者との共通の話題ができる。利用者の動線を考慮し、安全なソファの置き方を工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂・テラス・畑・ソファ等で好きな場所で思い思いに過ごされている。自由に過ごせる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人・ご家族と相談しながら、愛用していたものを持参頂き、居心地よく安心して過ごせるようにしている。	洗面所とクローゼットが各居室に設置されている。整理整頓がされており、居室全体が広く感じられる。テレビを置いたり、自分の作品を飾ったり、家族の写真などが置かれている。筆筒やいすを持ち込む方もいる。表札の飾りは職員がそれぞれの特徴をつかんで作り、目印となっている。好きな花を飾る方、帽子を愛用している方、コーヒーが好きな方、好きな魚の飾り付けなど、ホーム全体から楽しい雰囲気が醸し出されていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物を干すハンガーの高さの調節をしたり、取り出しやすい掃除用具の配置を工夫したりして、安全な環境づくりをこころがけている。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームこもれ陽の家

作成日: 平成 30 年 5 月 12 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	夜間を想定した避難訓練をしていない。夜勤は一人体制の為、夜間災害時の避難等に不安がある。	夜間を想定した避難訓練を実施し、利用者の安全な避難方法を検討し、避難誘導への不安を解消する。	①近隣住人に夜間想定訓練の参加のお願い。 ②利用者ごとの避難方法の検討 ③夜間想定訓練の実施(H30.6月実施予定) ④訓練の振り返りと今後の課題の検討 ⑤災害時の応援体制の確認(緊急連絡網での連絡)	1ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。